

『日本一』を



見に行くぞ!



令和 3年

10月25日(月)

No. 4

* 富士山の抱える問題とは…?

いよいよ、『校外学習』の週となりました。今のところ、天気予報では雨の心配はなさそうです。さらに、富士山五合目の気温も15℃前後となっています。このまま、順調に当日を迎えられるといいですね。

さて、ここまで様々な形で富士山とその周辺に関する事前学習を行ってきましたが、今回は「富士山が抱える問題」にスポットを当ててみたいと思います…。

『富士山が世界遺産に選ばれた理由とは?今後の課題と私たちにできること…』

富士山が世界遺産に選ばれた理由とその経緯について知っている人は少ないと思います。世界遺産に認定されているのは「山体」だけではないこと、“自然”遺産ではなく“文化”遺産となった理由など、また世界遺産であり続けるために、今後の課題となることについてお話ししていきましょう。

その1. 世界遺産に登録されているのは「富士山」だけではない?

富士山が世界遺産に登録され、世界から注目を集めて多くの観光客が国内外から訪れるようになりました。古来より、日本人の心の拠り所として、日本では知らない人はいないと言っても過言ではない山、富士山。実は、富士山の山体だけが世界遺産に登録されたわけではないと知っていますか?

2013年6月26日、カンボジアのプノンペンで開かれた国連教育科学文化機関(ユネスコ)の第37回世界遺産委員会において、富士山が「富士山ー信仰の対象と芸術の源泉」という名称で、世界遺産に登録されました。

富士山の世界遺産への登録は、富士山の山体だけでなく、富士山に関わる文化的な価値をもつ周辺の神社や登山道、風穴、溶岩樹型、山中湖や河口湖といった湖沼など、次のように全部で25か所あります。それは、富士山の文化的価値が様々な範囲に及んでおり、富士山の価値を構成する資産として現在に受け継がれてきたからです。

【富士山域およびそれと一体化した範囲】

〔富士山域〕（「山頂の信仰遺跡群」「登山道(4)」「北口本宮富士浅間神社」「西湖」「精進湖」「本栖湖」）

【周辺神社・巡礼地など】

〔富士山本宮浅間神社〕〔山宮浅間神社〕〔村山浅間神社〕〔須山浅間神社〕
〔富士浅間神社〕〔河口浅間神社〕〔富士御室浅間神社〕〔御師住宅(2)〕〔山中湖〕
〔河口湖〕〔忍野八海(8)〕〔船津胎内樹型〕〔吉田胎内樹型〕〔人穴富士講遺跡〕
〔白糸滝〕〔三保の松原〕

その2. 21年かけて…富士山が世界遺産に登録されるまでの道のり

多くの人の努力が実り、無事世界遺産へ登録された富士山ですが、そこへ至るまでには実に21年もの長い時間がかかりました。富士山は山なので、本来は世界“自然”遺産になるんじゃないの？世界“文化”遺産へ登録されたのはなぜ？といった疑問も、登録までの経緯を知ることで見えてきます。富士山の世界遺産登録までの歴史を見ていきましょう。

1992年に日本が世界遺産条約に加盟して以降、民間を中心に富士山の世界自然遺産への登録を目指した動きがスタート。2003年には国の検討会で検討対象として取り上げられるものの、ユネスコへの推薦候補からは外れました。その後、文化遺産登録を目指す方針に切り替え、2007年にユネスコの暫定リストに登録されました。

世界遺産はその内容によって、「自然遺産」「文化遺産」「複合遺産」の3つに分類されます。自然遺産は後世に引き継いでいくべき自然環境について認定され、文化遺産は建築物や遺跡、複合遺産はその両方があるもの、とされています。

富士山も当初は自然遺産登録を目指していましたが、登山者のし尿処理の不備やごみ投棄問題など、環境保全の状況が障害になり、推薦候補からは外れました。

富士山は日本最高峰として古くから信仰対象で、浮世絵など多くの芸術に影響を与えてきた存在です。そこで視点を変え、富士山の文化的意義に着目。世界文化遺産としての登録を目指すことにしたのです。

一連の手続きや現地視察などを経て、2013年に富士山は世界遺産に認定されました。荘厳な姿を見せる富士山は、古来より山岳信仰といった宗教的な側面やその姿に対する深い憧れ、自然との共生を重んじる伝統などを育み、日本はもとより、世界的にも多くの芸術の源泉になってきたことが評価されました。

その3. 世界遺産に登録されたことによるメリットとデメリット

世界遺産に登録されたことは、日本人の心に深く根差した象徴的な存在である富士山が、世界的にもその価値をしっかりと認められたことを意味するので、とても喜ばしいことです。ただ、世界遺産登録にはメリットとデメリットが表裏一体となって横たわっています。

ここでは、世界遺産登録による光と影について見ていきましょう。

世界遺産に登録されることで世界的な認知度が飛躍的に上がり、国内外問わず多くの観光客が訪れるようになります。観光客は現地で食事や宿泊、お土産の購入などにお金を使ってくれるので、周辺の収益が上がり経済が潤うといった効果が期待できます。さらに旅行会社がツアーを企画したり、現地までの移動で交通機関の利用者が増えたりと、現地以外でも効果が波及していきます。世界遺産に登録された2013年は、現地周辺で前年よりも1～2割ほど観光客が増加しており、推測194億円の経済効果があったと発表されました。

観光客が増えることは経済的なメリットをもたらす一方、ゴミが増えて自然環境が害されるおそれや、交通の混雑や人が多く集まることで地元住民の生活に悪影響が出るおそれ、登山客の遭難といった事故のリスクの増加など、デメリット面も懸念されています。

・・

その4. 今後の私たちにできること

無事に世界文化遺産として認められた富士山ですが、課題も多岐に渡って残されています。また、世界遺産は「人類が共有すべき顕著な普遍的価値」のあるものとされているので、登録がゴールではなく、しっかりと保全して後世へ引き継いでいかなければなりません。では、どういった課題があり、私たちにできることは何があるのでしょうか。

世界遺産への登録に際してユネスコの諮問機関イコモスからは、主に「景観保全」の課題と「登山者への対応」に関する課題が指摘されました。景観保全の課題は、富士山やその周辺で行われる開発や現代的な施設が、富士山の文化的価値を傷つけているといった内容です。また、登山者への対応に関する課題では、世界遺産を守るためには増え続ける登山者をしっかりと管理する必要があるとの指摘がなされました。

ボランティアや山小屋のスタッフの方たちの努力をはじめ、登山者のマナーも向上してきたことからゴミは次第に減ってきてはいるものの、麓では不法投棄が続いており、ゴミ問題はまだ解決されていません。世界遺産に登録されると、保全状況を6年ごとにユネスコへ報告して審査を受けなければならない、問題の解決を怠れば登録抹消もありえるため、深刻な問題となっています。

登山の際にひとりひとりがマナーを守ることはもちろん大事ですが、環境保全や登山者の安全対策などを図る「富士山保全協力金」や、定期的に富士山の清掃活動を行っている団体へ参加することもできます。また、富士山の清掃ツアーを企画している旅行会社などもあります。今回の『校外学習』で興味がわいた人は、将来そのような活動に参加してみるのがいいかもしれませんね。

アルピニストや一般登山者だけでなく、登山とは無縁な人からも、多くの人から愛されている富士山。世界遺産に登録され、後世へ残していくべき貴重な存在だと世界に認められましたが、残された課題も多いのが現状のようです。今回、富士山とその周辺を訪れるにあたって、ぜひみなさんにもこういった問題を考える機会にしたいと思います。

〔富士山遊章〕

平成10年11月18日に静岡県と山梨県が定めた憲章。富士山を訪れる者として、ぜひ一度は読んでおきましょう。

(この憲章は、富士山五合目の広場などに掲げてあります)

- 一、富士山の自然を学び、親しみ、豊かな恵みに感謝しよう。
- 一、富士山の美しい自然を大切にし、豊かな文化を育もう。
- 一、富士山の自然環境への負荷を減らし、人との共生を図ろう。
- 一、富士山の環境保全のために、一人ひとりが積極的に行動しよう。
- 一、富士山の自然、景観、歴史、文化を後世に末永く継承しよう。

『富士山から日本を変える』

野口 健

(世界的アルピニストからのメッセージ) ❶

● 富士山は良い意味でも悪い意味でも日本の象徴だ。それを最初に意識したのが、と
● ある外国の登山家の「お前ら日本人はヒマラヤをマウントフジにするつもりか」とい
● う言葉だった。富士山はゴミが多いから世界（自然）遺産にならないという見方があ
● るが、仮に今、ゴミがゼロでも、世界遺産には到底なれない。私は世界中の山に登っ
● てきたが、頂上に立った瞬間に自動販売機が立ち並んでいるのは、世界でも富士山だ
● けだ。自然の中に人工物を置き過ぎている。管理体制も問題だ。国立公園の監督官庁
● である環境省は、その保護のために何もしていないのに等しい。更に巨大な利権があ
● り、自然を利用して儲けているにも関わらず、その保護にはほとんど目が向けられて
● いない。これらの富士山が抱える問題の構図は、日本の社会の縮図だと思う。だから
● こそ、僕は富士山が変われば、日本が変わると信じてやまないのだ。（JTBの旅行雑誌より）

